

日本気象学会2022年度総会議事録

日時：2022年5月19日（木）16時30分～17時30分
場所：気象庁講堂（東京都港区）（オンライン併用）
出席理事：佐藤 薫，橋田俊彦，青柳暁典，池上雅明，
 植田宏昭，榎本 剛，小池 真，齋藤篤思，
 佐藤正樹，竹見哲也，坪木和久，中村 尚，
 橋本明弘，早坂忠裕，平松信昭，廣岡俊彦，
 堀之内 武，三好建正，渡部雅浩，以上19名

出席監事：鈴木 靖，吉田 聡，以上2名

決議の要件：定款第17条第1項により，総社員の決議権の3分の1以上を有する社員が出席し，出席社員の議決権の過半数をもって行う。出席社員は，書面あるいは電磁的方法による総会参加票（議決権の行使と議決権の代理行使）により事前に意思表示を行い，総会では参加票で事前にした意思表示を変更できるものとする。

出席者：個人会員3,075名（2022年4月8日現在）のうち，総会参加票による出席者数1,152名（総会当日の参加数81名（会場参加11名，オンライン参加70名）を含む）

議 事

1. 開会

日本気象学会2022年度社員総会の開会が池上理事により宣言され，事務局から総会参加票の提出状況と決議の要件を満たしていることが報告された。

2. 議長選出

総会議長に安田珠幾会員（気象庁）を選出した。

3. 理事長挨拶

本日の2022年度定時社員総会にご参加の会員の皆様に対し，日頃より，気象学会において積極的なご活動・ご協力に感謝申し上げます。過去2回の定時総会は，新型コロナウイルス感染拡大の影響により主に書面・WEBによる参加票の提出のみでの開催でしたが，今回はオンライン参加を加えた新しい形態での開催とした。総会は，事業や会計をはじめとする議案の承認とともに，気象学会の運営などについて会員の皆様のご意見を伺う貴重な機会である。

まずは，日本気象学会2022年度春季大会の開催が無事に進められていること，気象庁の大会実行委員会の皆様，また，講演企画委員会の皆様，そして580名の多くの参加者の方々に感謝申し上げます。実はこの参加者数は前回の春季大会より少な目である。そ

の理由については大会終了後アンケートなどにより調べていく予定である。

最初に残念なお知らせをしなければならない。第41期理事会の学術委員長を務められていた塩谷雅人理事が今年2月9日にご病気のため逝去された。昨年末まで理事会やWGに参加されるなど，最後まで熱心に活動してくださった。ここに謹んでお悔やみを申し上げる。

今期，第41期理事会は，新型コロナウイルス感染症のパンデミックと共に始まったが，昨年度は各委員会・各支部において以前と比べて遜色のないオンラインによる活動が行われた。また，大会においても，ウィズ・ポストコロナ時代の大会のあり方WGでの検討を進め，大会実行委員会・講演企画委員会・理事会の連携により充実した開催ができた。この経験を踏まえ，今後の大会開催形式を大きく変更し，春季大会をオンライン主体に，秋季大会を現地開催とすることにした。オンラインのほうが設営にかかる負担が軽いことから，春季大会の6つの担当機関のうち2機関を秋季大会担当に変更する。これにより各地方の支部開催のローテーションが現在の5年から7年になり支部の負担が軽減される。

財政改善検討WGにおいて学会の財政を精査したところ，第41期の始まる今から2年前までの5年間の累積赤字額が3000万円を超えており，気象学会の会費収入の2割に当たる赤字を毎年出していたことがわかった。削減できそうな支出は削減し，大会事業の参加受付システム・予稿集の内製化などを進めた。精査の結果，見えてきたことは，現在の事業は第41期での検討事項も含めるとかなり最適化されており，さらなる大きな経費削減の余地はあまりないように思われることである。大会におけるオンライン活用により収支の改善は期待されるが，今後積極的な収入増を考える必要がある。また，関連して学会ホームページを社会へのメッセージ性の高いものにする等を目的に，新たに広報委員会を設立予定である。

昨年度は加えて，「日本気象学会の各賞のあり方検討WG」を立ち上げ，学会の賞に関する細則・規程の一部改正が行われた。授賞式の理事長挨拶で報告したので，ここで詳しくは述べないが，特に，藤

原賞と正野賞の推薦時期が今年度から変わるので、注意をお願いします。詳しくは学会 HP や天気 6 月号のお知らせをご覧ください。

出版事業に関しては、「天気」において若手編集委員を中心とした気象学の「わかりやすい解説シリーズ」が始まる。ここのところの円安で外国雑誌の投稿料が高騰しているが、「気象集誌」、「SOLA」は、国際的知名度が高く、オープンアクセスで良心的な価格設定となっている。会員の皆様には両誌での論文出版を、これまで以上にご検討いただければ幸いです。

この春季大会では、明後日土曜日午後には昨年のも真鍋淑郎先生のノーベル物理学賞受賞を記念したシンポジウムが開催される。真鍋先生に特別の許可をいただき、気象学会で作成した日本語字幕付きのノーベルレクチャーも上映される。多くのご参加を期待する。

以上、第41期の事業や各種の検討状況のご報告をし、理事長挨拶とさせていただきます。

4. 2022年度総会議案

議案 1：2021年度事業報告

池上理事から、研究会及び講演会等の開催と普及・啓発活動、機関誌等の刊行、研究業績の表彰等の事業報告があった。

議案に対する質疑はなかった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,152票、賛成1,148票、反対3票、保留1票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案 2：2021年度決算報告

齋藤理事から、公益法人会計基準に従った決算報告があった。

議案に対する質疑はなかった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,152票、賛成1,149票、反対2票、保留1票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案 3：2021年度監査報告

鈴木監事から、帳簿類の管理、収支、事業執行状況と学会の運営状況に関する監査結果が報告された。2021年度の活動について、昨年から続く新型コロナウイルスへの対応が必要な中、秋季大会では久しぶりの現地開催が行われたことについて、対面開催の重要性を改めて認識した。一方、継続的な事業収益の改善のために、財政改善と大会のあり方を検討する2つのWGの検討内容を確実に実行に移していくことが望まれる。また、会員サービスの向上等による学会活動の充実と魅力の発信を通じて、会員数の減少を抑えることが必要であるとの報告があった。

議案に対する質疑はなかった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,152票、賛成1,149票、反対2票、保留1票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案 4：公益社団法人日本気象学会細則の一部改正について

池上理事から、役員選任候補者選挙の投票を電磁的方法でも実施できるよう公益社団法人日本気象学会細則の一部改正することについて説明があった。

総会参加票による事前の2件の質問「投票の秘密の保持について、どのような対策がなされているのか」「電磁的方法を導入した場合においても資格の確認（誤って複数回投票してしまうことの防止・排除を含む）と投票内容の秘密の両立が担保されるのか」について、池上理事から、前者については今後十分な対策を施す予定であること、後者については投票資格の有無を確認するとともに、同一会員からの複数投票は集計の際に日付の新しい方を採用するとの回答があった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,152票、賛成1,145票、反対2票、保留5票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案 5：第41期名誉会員の推薦について

名誉会員推薦委員会委員長の廣岡理事から、4名の候補者及び推薦理由の説明があった。

総会参加票による事前の意見「推薦対象者個別に賛否を問うべき」について、廣岡理事から、理事等の役員の選任は個別に決議を行うと定款に定めがあるが、名誉会員については候補ごとに個別に決議を行う定めはないこと、これまで一括で決議をしてきていることから、今回も一括で採決を頂きたいとの回答があった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,152票、賛成1,144票、反対3票、保留5票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案6：第42期役員選任について

議長から、第42期役員候補者選挙における当選者及び理事会からの推薦による理事選任候補者の選任議案であり、総会資料などで事前に周知したように総会参加票により示された意思表示をもって議決する旨の説明があった。また、参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、すべての議案の有効票は1,152票で、賛成、反対、保留はそれぞれ議案ごとに次のとおりで、定款第17条第1項により賛成多数で承認された。

議案6-1渡部雅浩	賛成1,149、反対2、保留1
議案6-2榎本 剛	賛成1,149、反対2、保留1
議案6-3早坂忠裕	賛成1,148、反対3、保留1
議案6-4佐藤 薫	賛成1,147、反対4、保留1
議案6-5佐藤正樹	賛成1,147、反対4、保留1
議案6-6三好建正	賛成1,148、反対3、保留1
議案6-7荒川知子	賛成1,148、反対2、保留2
議案6-8中村 尚	賛成1,149、反対2、保留1
議案6-9竹見哲也	賛成1,150、反対1、保留1
議案6-10竹村俊彦	賛成1,150、反対1、保留1
議案6-11堀之内 武	賛成1,146、反対4、保留2
議案6-12坪木和久	賛成1,147、反対4、保留1
議案6-13橋本明弘	賛成1,149、反対2、保留1
議案6-14植田宏昭	賛成1,149、反対2、保留1
議案6-15高谷康太郎	賛成1,150、反対1、保留1
議案6-16稲津 将	賛成1,150、反対1、保留1
議案6-17青柳曉典	賛成1,148、反対3、保留1

議案6-18池上雅明	賛成1,144、反対3、保留5
議案6-19齋藤篤思	賛成1,144、反対3、保留5
議案6-20橋田俊彦	賛成1,141、反対6、保留5

その他の総会参加票での事前の意見などへの回答

総会参加票における表彰に関する意見「山本賞受賞者選定規程における最終学歴の条件規定」について、佐藤 薫理事長から、最終学歴に関係なく優秀な論文を発表した方を表彰すべきとの意見に同意するとともに、博士課程に進学して新進の研究者・技術者となることを推奨することも気象学・大気科学の発展にとって重要であるとの趣旨も踏まえて山本賞の選定の規定を設定していること、また、現状においても学歴に関係なく優秀な論文を発表した人に気象集誌論文賞、SOLA 論文賞を授与するなど、学会賞などの他の賞においても学歴に関係なくすぐれた業績を表彰する賞の体系としている現状について説明があった。

また、同じく総会参加票における表彰に関する意見「各賞ごとの表彰の件数に差がある。特に松野賞は表彰件数が多い。表彰を乱発すると価値が低下してしまう」に対して、松野賞推薦委員会委員長の三好理事から、松野賞の受賞件数は、松野賞受賞者選定規程に定められており、自身が主体的に行い、独創性が高く顕著な成果の得られた研究に関し、優れた発表をした学生を表彰するもので、大会ごとにおよそ5名の発表者に対して1名の割合で受賞候補者を選定としている。学生の優れた研究を表彰するもので、学生の研究をエンカレッジする目的があり、受賞件数の割合は、このような松野賞の趣旨に鑑みつつ松野賞推薦委員会での議論を経て理事会で決定している」と回答があった。

議長から、総会参加票に記載された意見などに対しては、その回答を会員サイトに掲載する予定であると補足がなされた。

5. 2022年度総会報告事項

報告1：2022年度事業計画

池上理事から、従来の事業を継続して実施することに加え、秋季大会について北海道大学にて対面形式で行うとの説明があった。

報告に対する質疑はなかった。

報告2：2022年度収支予算

齋藤理事から、公益法人会計基準及び2020年度の実績に従って予算を組んだこと、受取会費を公益目

的事業会計と法人会計に2021年度と同じ割合で配分したこと、赤字予算ではないことなどの説明があった。

報告に対する質疑はなかった。

6. 議事録署名人の指名

議事録署名人に、中村 貴会員（気象庁）と後藤優太会員（気象庁）を指名したところ、異議なく承認された。

7. 議長解任

安田議長により、総会の議事運営に関する出席者

の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

8. 閉会

池上理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

2022年6月10日

総会議長 安 田 珠 幾

出席者代表 中 村 貴

出席者代表 後 藤 優 太